

令和2年度 事業報告書

社会福祉法人 まこと

- 法人本部
- 特別養護老人ホーム しあわせの家
- ショートステイ しあわせの家
- デイサービスセンター しあわせの家
- 居宅介護支援事業所 しあわせの家
- 地域密着型特別養護老人ホーム しあわせの家寒川
- ショートステイ しあわせの家寒川

社会福祉法人まこと 法人本部 事業報告書

1. 令和2年度の重点取組結果

(1) 安定した経営の維持

各事業所の稼働率の向上による収入増加を目指しました。

特別養護老人ホームしあわせの家は、11月～1月にかけて入院者及び退所者の増加により稼働率は低下し、95.2%(年度目標96%)となりました。

在宅サービスであるショートステイしあわせの家の稼働率は、84.7%(年度目標95%)、デイサービスセンターしあわせの家の利用率は79.5%(年度目標85%)、居宅介護支援事業所しあわせの家は、月間目標120人に対して71.7%の達成率となりました。

寒川事業所における地域密着型特別養護老人ホームしあわせの家寒川は89.4%(年度目標92%)、ショートステイしあわせの家寒川46.7%(年度目標84%)となり、全ての事業所にて目標が達成できないこととなりました。詳細については、各事業所の事業報告書をご参照下さい。

又、無駄の排除による経費削減については、6月まではほぼ昨年度と同等で推移しましたが、7月以降は寒川事業所開設及びコロナウイルス感染防止経費の増加があり、目立った削減効果を上げることはできませんでした。

(2) サービスの質（接遇）の向上

接遇向上委員会を開催し、同委員会で確認した資料を全職員に配布することにより適切な接遇マナーの意識付けを行いました。

又、「社会福祉法人まことが求める人材」と題した資料(当法人は顧客意識を持ってご利用者と関わろうとする人を求めています等)を全職員に配布し、接遇意識を推進させ、新規雇用者の採用面接時に同資料を配布する運用としました。

顧客満足度調査については継続的に実施しました。但し、コロナ禍にあって面会制限を実施したことに伴い、アンケート内容を変更し実施しました。

(3) 人材育成の推進と人材確保

外部研修への参加を積極的に行うこととしていましたが、コロナ感染症対策にて多くの研修が中止となるなど、目標通りとはいきませんでした。よって研修については施設内研修が主となり、内容については、文書を回覧する(しあわせの家寒川では、集合研修を実施)ことにより職員の知識を深めることとしました。

人材確保のための施策として派遣会社の活用、ハローワークでのミニ面接会の開催、シルバー人材の活用、介護職技能実習生受入調整、高等学校訪問を行いました。

本年度は36名(内寒川事業所24名)を直接雇用開始、派遣業者より2名を受け入れました。

来年度4月より新卒(高校卒)1名、中途採用2名の雇用が決まっており、5月までに育児休業者4名(常勤2名、非常勤2名)が復帰する予定です。又、インドネシアの実習生3名受入予定として関連業者と調整(訪日時は7月以降)しています。

(4) 労働環境の整備及び職員健康管理

令和2年度の有給休暇の取得は1人あたり8.9日です。育児休業取得者は7名(内3名復帰)、1ヵ月あたりの平均時間外勤務は約1時間となりました。開設した寒川事業所には、豊岡事業所と同様のタイムカードシステム、及び介護ソフトと連動したねむりスキャン40台を導入しました。豊岡事業所については、介護ソフトクラウド化に対応したパソコンの更新、令和2年度新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を使用してWiFi環境及びエアマットを整備しました。

職員健康管理については、本年、職員の福利厚生(健康診断)の充実を検討していました。結果、「人間ドック等受検者助成金支給要綱」を整備し、来年度4月より、希望者(条件あり)の検診について法人が一部負担を助成することとしました。職員の労働環境改善・満足度向上及び雇用継続の一助になることを期待しています。

2. 実施事業結果

各事業の事業報告書参照

3. 年間行事・各種会議結果

5月の物故者供養祭、6月の家族の集い及び8月の花火大会等多人数の集まる行事、会議、研修をコロナ感染拡大防止のため中止しました。

4. その他、運営結果

* 8月20日 地域密着型介護老人福祉施設「特別養護老人ホームしあわせの家寒川」及び「ショートステイしあわせの家寒川」を開設しました。

* 10月16日 理事会を開催し、「特別養護老人ホームしあわせの家寒川」及び「ショートステイしあわせの家寒川」の建物(基本財産)の担保設定及び各種規程等の改正を議題提案し承認されました。

* 10月28日 評議員会を開催し、定款の改正、及び建物(基本財産)の担保設定等を議題提案し承認されました。

* 12月4日 10月28日付けにて令和2年度新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業補助金の申請を行い、11月16日付けにて承認(11月30日付けにて入金)されたため、職員交付分を支給しました。

* 12月11日 四国中央市による法人指導監査が実施されました。

* 1月24日～2月14日 新型コロナウイルス感染症に係る高齢者施設等へ応援職員(延べ25人)を派遣しました。

特別養護老人ホーム しあわせの家 事業報告書

1. 令和2年度の重点取組結果

(1) ご利用者の尊厳を守る対人援助技術・接遇マナーの向上

今年度より接遇向上委員会を設け、施設全体で共通認識のもと接遇向上に取り組ましました。しかし、利用者処遇において言葉遣いが不十分な面が散見される結果となりました。顧客満足度調査については、昨年度までは面会時における館内の環境や職員の接遇等の調査内容でしたが新型コロナウイルス感染症対策による面会制限を設けた為、電話での応対や、文書案内等の評価をいただく調査内容へ変更して実施し、多くの顧客から様々な評価をいただきました。

接遇向上に向け、長期に渡り全体への啓発や個々への教育を行いました。全職員が利用者を敬う気持ちがあるものの、言葉として表出できず馴れ馴れしい言葉になる事がありました。今後も質の高いサービスが提供できるよう、接遇向上委員会を有効に活用し接遇マナーの向上に取り組むたいと考えます。

(2) 他職種連携（法人内）の充実

事業場内での他職種連携は概ねできていました。前年度の評価において責任者がいないため医務との連携に課題がありましたが、今年度より主任を配置する事で課題の解消を図る事ができました。今年度は寒川に地域密着型介護老人福祉施設が開設となり、同事業所との連携については、開設後の顧客確保に向け入所希望者の情報提供を行う事で連携強化を図る事ができました。しかし、法人、施設内での他職種との情報が共有されていない面が散見されており、年度末に法人内、施設内での情報共有のシステムを構築しました。構築してまだ間もない現状であり、今後システムの浸透及び、適宜評価、改善に取り組み他職種との連携強化を図りたいと考えます。

(3) 人材育成の推進

新型コロナウイルス感染症に伴い、リモートでの出席が可能なもの以外の多くの研修は中止となりました。又、施設内研修は文書開催へ変更しました。研修へ参加してスキルアップするという意味での人材育成は、十分な成果は得られませんでした。

人事考課制度により職員個々のスキルの評価や、課題抽出、目標設定を行う事で更なるスキルアップに向けてのモチベーション向上に繋げる事ができ、人事考課制度が定着し有効活用できていると感じられました。

新人教育プログラムに沿った教育や指導、メンター制を活用する事で新規雇用職員のメンタルフォローや、またメンター職員自身が教育指導について、部署責任者や管理職と相談し実施する事で教育指導スキルの向上に繋げる事ができました。

今後、全職員が施設運営向上に向けてのモチベーションアップに繋がるよう、職員教育を担う中堅職員や管理職員のスキルアップに取り組むたいと考えます。

(4) コスト意識の向上

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、全国的にマスクやプラスチック手袋等の品薄、高騰が見られました。施設での安全かつ安定した利用者処遇が行えるよう必要物品の備蓄を行いました。コスト高になりましたが、安定した業務遂行の為に必要な費用であったと考えます。コスト削減については各部署でのミーティングにおいて、コスト意識を持って業務に臨めるよう啓発するとともに、消耗品の消耗頻度や適切な使用のアセスメントを行い、コスト削減だけでなくコスト最適化に繋げる事ができました。今後も継続して実践したいと考えます。

(5) 各種技術の向上

各種技術の向上に向けた研修については、コロナ禍での研修中止により十分な取り組みができませんでした。福祉機器の導入については、既存の福祉用具の劣化と併せて、入所者の重度化に対応できるよう、専門職との意見交換や費用対効果のアセスメントを行い新たに車椅子等の移動器具、またエアマットを購入し有効に活用できる結果となりました。

今後、介護職の課題である腰痛対策に向け、研修への参加や福祉用具の選定、購入を検討しノーリフトケア実践に取り組みたいと考えます。

2. 目標稼働率結果

① 96%

$(100\text{床} \times 365\text{日} - \text{入院日数} \cdot \text{外泊日数} \cdot \text{退所} \Rightarrow \text{入所間の空床日数}) \div (100 \times 365)$

② 年間入院日数1000日以内

上記目標を掲げていましたが、実績は以下の通りとなります。

① 95.2% ※前年度 95.5%

② 1,235日 ※前年度 1,045日

目標達成に至りませんでした。要因としては8月より体調を崩され入院される利用者が多くなるとともに、併せて退所となる利用者が重なりました。退所者数は、前年度の23人に対し今年度は30人と7人多く、退所から新規入所までの空床総数が517日であり、前年度と比較すると76日の増加となりました。退所後速やかに入所に向け調整を行いましたが11月から1月にかけて退所者が増える中、待機者の入所辞退も重なり稼働率低下に繋がりました。今後は、出来る限り速やかに入所となるよう各職種と連携し調整していきたいと考えます。

3. 施設行事实施結果結果

新型コロナウイルス感染症の感染対策に伴い、外部との接触が3密となる行事については自粛しました。館内のみで行う行事については、周囲の感染状況や行政の指示に従い規模を縮小して行いました。今後、周囲の状況を確認し行事活動再開に向け検討していきたいと考えます。

4. 職員配置結果結果

概ね事業計画の通り配置することができました。

令和2年度新規雇用者11名（介護職員9名・看護職員1名・清掃職員1名）

令和2年度退職者13名（介護職員10名・看護職員2名・配置医師1名）

5. 各種委員会・職員会議結果

新型コロナウイルス感染症の流行状況により、中止や文書開催へ変更となる事がありましたが、概ね事業計画の通り実施できました。今後周囲の状況を確認しつつ再開に向け検討していきたいと考えます。

6. 各種研修会結果

新型コロナウイルス感染症の感染対策に伴い、外部講師を招いての研修を中止しました。又参加を予定していた研修の多くが中止となりましたが、義務付けられている必須研修については文書による開催へ変更し実施する事ができました。今後周囲の状況を確認しつつ研修への参加や企画再開に向け検討していきたいと考えます。

7. その他、運営結果報告

- 4月 *新型コロナウイルス感染症による面会の禁止・制限
 (行政の指示に従い、適宜周囲の感染状況を確認しながら都度判断実施)
- 5月 *民法改正に伴う契約書の様式変更
- 6月 *顧客満足度調査(上半期)実施
 *既入所者の契約更新(6月より計画的実施)
 *既入所者の急変時における延命処置に関する意思確認(6月より計画的実施)
 *寝具交換実施
- 8月 *夜間オンコール体制変更(外部委託対応)
- 10月 *職員満足度調査実施
 *ストレスチェック実施
 *寝具交換実施
 *職場環境改善アンケート実施
 *インフルエンザ予防接種実施(10月～12月)
- 12月 *顧客満足度調査の実施(下半期)実施
- 1月 *人事考課制度実施
 *新型コロナウイルスクラスターにおける市内介護保険施設関連事業所への
 介護職員応援派遣
- 3月 *貯水槽清掃実施
 *令和3年度報酬改定に伴う案内同意文書の発送

ショートステイ しあわせの家 事業報告書

※「ショートステイしあわせの家」は、特別養護老人ホームしあわせの家の併設事業となる為、重複する部分については特別養護老人ホームしあわせの家事業報告書をご参照お願い致します。

1. 令和2年度の重点取組結果

- (1) ご利用者の尊厳を守る対人援助技術・接遇マナーの向上
- (2) 多職種連携(法人内)の充実
- (3) 人材育成の推進
- (4) コスト意識の向上
- (5) 各種技術の向上

＊上記(1)～(5)について特別養護老人ホームしあわせの家の事業報告書参照

(6) 安定した経営の維持

- ＊居宅介護支援事業所の介護支援専門員との情報交換
- ＊地域ニーズアセスメント
- ＊入所申請者の在宅生活状況の確認とニーズ把握
- ＊サービス担当者会の参加
- ＊介護相談

コロナ禍ということもあり、各居宅介護支援事業所への積極的な訪問は行っていないが、各事業所のケアマネージャーへの利用状況の報告や担当者会への参加によって、連携しながら問題解決に向け早期対応を図る事ができました。また、地域の方からの相談にも迅速に対応することで、利用に繋げるという事例もありました。

法人内においても、新事業場とご利用者の状態や空床状況など情報を共有することができていましたが、稼働率向上には繋がらず、これから更に連携を強化していきたいと思います。

2. 目標稼働率結果

計画 全ての空床を含めた実総数に対して 95%

上記目標に対して、令和2年度の実績は以下の通りとなりました。

84.7% (昨年度: 89.7%)

目標達成に至りませんでした。要因として8月～9月にかけてショートロング利用者の寒川への入所と、継続利用されていた方の永眠や他施設入所などで利用中止者が重なり、利用者を確保することができませんでした。また、9月以降は新規契約も多くありましたが、特養入所者の入院が多く、空床利用するご利用者を確保できませんでした。稼働率を向上させるためにも、各居宅介護支援事業所への案内を積極的に行っていく必要があると考えています。

3. 施設行事实施結果

4. 職員配置結果

5. 各種委員会・職員会議結果

6. 各種研修会結果

*上記3. ～6. については特別養護老人ホームしあわせの家の事業報告書参照

7. その他、運営結果報告

4月 *新型コロナウイルス感染症による面会の禁止・制限

5月 *民法改正に伴う契約書・重要事項説明書の様式変更

12月 *テレビ2台購入（ご利用者のニーズに合わせて）

3月 *令和3年度報酬改定に伴う案内文書の発送

※他の月については特別養護老人ホームしあわせの家の事業報告書参照

デイサービスセンター しあわせの家 事業報告書

1. 令和2年度の重点取組結果

(1) ご利用者の尊厳を守る対人援助技術・接遇マナーの向上

グループ会において、意見交換やご利用者に対してのホスピタリティの精神を発揮したサービス提供ができるように啓発活動が続けてきた結果、全体として意識付けはできています。しかし、状況によっては不十分な場面が見られます。顧客満足度調査に大きな影響を与える部分でもある為、全体への啓発活動を更に継続するとともに、全職員の顧客意識が高まるよう取り組みたいと考えます。

(2) 多職種連携（法人内）の充実。

デイサービスセンターにおける多職種連携は図れました。コロナ禍であることから朝礼や施設内研修の見合わせなどの施策がとられていますが他部署の運営会議録やグループ会議録等確認することで法人内の連携はとれていると考えます。

(3) 人材育成の推進

コロナ禍の影響で外部研修の受講など見合わせました。施設内でのスキルアップ向上に取り組む研修は予定どおり行いました。新規雇用者については新人日報を活用し、悩んでいることや疑問点がないかなど、また、全ての職員が意見を率直に出せるような職場環境づくりを考えています。

(4) サービス内容の充実

コロナ禍の影響でご利用者が楽しみにしていたお花見などの外出行事が実施できませんでしたが、すいか割りや敬老会、運動会、忘年会など室内で行える行事は例年以上に創意工夫を凝らしご利用者に楽しんでもいただきました。次年度もコロナ禍で外出行事は難しいと考えますがご利用者の声に耳を傾けながら、満足していただけるようなサービス提供ができるように考えます。

(5) 安定した経営の維持

コロナ禍、ご利用者のご理解や職員の健康管理維持で無事に運営はできていますが、ご利用者の減少が見られます。長期入院やご自宅での療養、登録者の高齢化や病気になると回復が遅い、ご利用者のほとんどが週2回以上のご利用計画者であること、また一部のご利用者が短期利用とデイサービスの併用などが要因と考えられます。新規ご利用者の勧誘をどのように進めるか、また、デイサービスの質の向上を図り地域のみなさまに当該デイサービスセンターを選んでいただける必要があります。職員一同が安定した経営の維持について取り組んでいきたいと考えます。

2. 目標稼働率結果

目標：85% 34名/日

上記目標を掲げていましたが、令和2年度の実績は以下の通りです。

実績：79.5% 31.8名/日

目標は達成できていません。利用定員を令和元年度にご利用者やご家族の紹介で新規紹介が多かったことやご利用者の利用回数を増やすため利用定員を35名から40名に

増員しましたが、その後は新規利用者が減少しています。一時的な対応がこのような結果にならないよう継続した利用者獲得方法を考える必要があります。

他の居宅介護支援事業所へのデイサービスセンターの積極的な宣伝や地域みなさまに今以上にデイサービスを知っていただける活動も大切と考えます。そのためには、みなさまの様々なニーズにお応えできるよう職員のスキル・接遇マナーの向上を図りみなさまに選ばれるデイサービスづくりを考えます。

3. 行事実施結果

コロナ禍の影響で外出に関連する行事は見合わせましたが、概ね事業計画の通り実施できました。顧客満足度調査で外出の希望の意見も多数ありましたが、ご利用者にご理解と運営にご協力を賜っています。

4. 職員配置結果

新規嘱託常勤雇用者主任兼生活相談員 1 名

新規雇用者介護職員 2 名

年度途中異動看護師 1 名

正規介護職員 1 名をパート雇用者として令和 3 年 1 月より雇用形態を変更

正規看護職員 1 名をパート雇用者として令和 3 年 3 月より雇用形態を変更

パート雇用者 1 名退職

5. 各種委員会・職員会議結果

概ね事業計画の通り実施できました。サービス向上に繋がる委員会活動、系の活動は今後も継続しておこないます。

6. 各種研修会結果

一部予定を変更することがありましたが、職員のスキルアップに繋がる各種研修会を行う事ができました。

7. その他、運営結果報告

* 5 月 通所介護個別機能訓練加算Ⅱ算定

* 6 月 顧客満足度調査（上半期）実施

* 10 月 職員満足度調査実施

寝具交換実施

職場環境改善アンケート実施

ストレスチェック実施

インフルエンザ予防接種実施（11月）

* 12 月 年末大掃除実施

顧客満足度調査（下半期）実施

* 1 月 人事考課制度の実施

新型コロナウイルスクラスターにおける市内介護保険施設関連事業所への
介護職員派遣

* 3 月 令和 3 年度介護報酬改定準備

居宅介護支援事業所 しあわせの家 事業報告書

1. 令和2年度の重点取組結果

(1) ご利用者の尊厳を守る対人援助技術・接遇マナーの向上

意識づけもできており、利用者や家族、事業所に対しても対応ができています。今後も啓発活動し信頼され地域で選ばれる事業所になるように努めていく。

(2) コンプライアンス（法令遵守）の徹底

昨年度に実地指導を受けて継続し法令遵守に努めています。今後も法令の解釈に関して解釈通知や書籍等で調べ、他事業所や職場で相談する事で適切に対応する事ができるようにします。

(3) 人材育成教育

新型コロナウイルスの蔓延もあり、研修等も自粛する状態が続いており、研修への参加はあまりできてはいませんが、更新研修へ参加し考え方の再確認、新しい知識を得ることも出来ました。職員全員でマニュアルを見直すことで業務の見直し及び統一もできました。

管理者が必要書類のチェックを行い、個人面談も行い指導を行いました。

2. 目標利用者数

*利用者 120名

上記目標を掲げていましたが、令和2年度の実績は以下の通りです。

*令和3年3月利用者 88名（新規利用者 38名）

目標を大幅に下回る結果となりました。新規利用者は昨年の同時期と比べると11人増え計画立案者も昨年に比べると12名増えています。目標を下回った要因としては新型コロナウイルス蔓延によりサービスの利用を希望される方が少なかった事と、今年度に入り新施設や増床した施設への入所者が多数出た事が考えられます。

3. 職員配置結果

事業計画の通り配置できました。

4. 各種委員会・職員会議結果

概ね事業計画の通り実施できました。

5. 各種研修会結果

新型コロナウイルス下で研修の参加もままならない状態ではあったが、更新研修等に参加することができました。

施設内研修は中止し文書で開催しています。

6. その他、運営結果報告

10月 *ストレスチェック実施

*職場環境改善アンケート実施

12月 *感染症対策実施（～2月）

2月 *人事考課の実施

地域密着型特別養護老人ホーム しあわせの家寒川

事業報告書

1. 令和2年度の重点取組結果

(1) サービスの質の向上（接遇）

コロナ禍において、外部研修への派遣や外部講師を招いての施設内研修は実施できませんでしたが、顧客意識を浸透させるための独自の研修・教育は実施できました。顧客満足度調査については開設間もないことから令和3年6月に実施予定としています。現状の評価としては、比較的高い水準となっているものの、まだ不十分と考えています。その理由は、入居者の生活に密着するため、何気ない日常会話の中で自然とタメ口が出てしまうことが見受けられるからです。日常会話そのものに不快を感じるような関わりをしている者はいませんが、そこで妥協してしまうと顧客意識を高めることはできないと考えますので、更に継続して根気強く顧客意識の浸透に取り組みたいと考えます。

(2) サービスの質の向上（ユニットケア）

ユニットケアの実践については、施設としての方針を明確にした上で職員に対する教育やリーダー会による実践状況の評価を行うことで徐々に浸透しています。しかしながら、今までの経験を全く無にしてのシフトチェンジは簡単ではなく、時折職員都合の効率化という対応となっていることもあります。一朝一夕に実現できることはありませんので更に継続して施設の方針をブレることなく伝え続けて、誰に対しても誇れるユニットケアが提供できるように取り組んでいきたいと考えます。

(3) 安定した運営

入居に関しては、開設前の準備によって円滑な入居に繋げることができたものの、入院者や急変による退居者の発生等で十分な稼働とはなりません。まだ開設して間もないこともありますので、次年度も継続して安定した運営に向けて取り組みたいと考えます。

尚、入居のニーズについて変化が見られ、入居を熱望している方の数が減少しているように思われます。こうした状況の中で安定した運営を行っていくためには、入居者から選ばれる施設となれるようにサービスの質を高めることが必要不可欠であると考えます。

2. 目標稼働率結果

92%

$(29 \text{ 床} \times 224 \text{ 日} - \text{入院日数} \cdot \text{外泊日数} \cdot \text{退所} \Rightarrow \text{入所間の空床日数}) \div (29 \times 224)$

上記目標を掲げていましたが、令和2年度の実績は以下の通りです。

89.4%

目標は達成できませんでした。開設後の入居者受け入れスケジュールについては概ね計画通りに実施することができましたが、想定以上の入院者・退居者の発生があったことが要因となります。また、入居を案内しても即答というケースが非常に少なくなっていることから退居から新規入居が決まるまでに期間を要しているということもあります。事前調査を含めた準備を密にするとともに日頃の健康管理に留意して早期対応に努めていきたいと考えています。

3. 施設行事実施結果

コロナウイルス感染症対策として、施設外部との交流といった企画を実施することはできませんでした。施設内（ユニット）での様々な企画は実施できました。今後のコロナウイルス感染症の状況を鑑みながら企画していきたいと考えています。

4. 職員配置結果

現時点での職員配置状況は以下の通りです。看護職員の退職が 2 名発生しましたが、事業計画以上に充実した配置ができたと評価しています。

その他、シルバー人材センターを活用しての家事援助スタッフ・洗濯スタッフの導入によって手薄になる部分をカバーしています。

	計画（常勤換算）	現在
施設長	1 名	1 名
統括主任	1 名	1 名
介護職員	20 名	22 名
看護職員	4 名	3 名
生活相談員	2 名（兼務 1）	2 名（兼務 1）
介護支援専門員	2 名（兼務 1）	2 名（兼務 1）
機能訓練指導員	1 名（兼務 1）	1 名（兼務 1）
管理栄養士	1 名	1 名
医師	非常勤 2 名	非常勤 2 名
事務職員	1 名	1 名
洗濯職員	1 名	0 名（シルバー人材センター）

令和 2 年度

本体施設から異動 9 名

新規雇用者 24 名

（介護職員 17・看護職員 3・生活相談員 1・介護支援専門員 1・管理栄養士 1・事務職員 1）退職者 2 名（看護職員 2）でした。

5. 各種委員会・職員会議結果

概ね事業計画の通り実施できました。サービス等の質の向上に繋がる委員会活動も実践できました。

6. 各種研修会結果

研修内容を予定変更して対応しました。開設初年度であったことから頻度は調整したものの、義務付けられている必須研修の開催も概ね実施できました。職員のスキルアップに繋がる効果的な研修を実施できたと評価します。

7. その他、運営結果

- 8月
 - *新規事業開始
 - *落成記念式典開催
- 9月
 - *施設長面談（全職員対象）実施
- 10月
 - *職員満足度調査実施
 - *ストレスチェック実施
 - *職場環境改善アンケート実施
 - *インフルエンザ予防接種実施（10月～11月）
 - *第1回運営推進会議開催
- 11月
 - *家事援助スタッフ導入（シルバー人材センター）
- 12月
 - *感染症対策実施（～2月）
コロナウイルス対策として、自動体温測定器の導入・防護具の備蓄対応
 - *第2回運営推進会議開催
- 1月
 - *人事考課制度実施
 - *四国中央市内施設でのクラスター発生に伴い、応援職員の派遣並びに面会禁止措置実施
 - *コロナウイルスが発症した場合のシミュレーション策定
 - *管理栄養士配置
- 2月
 - *第3回運営推進会議開催（行政承認のもとで書面開催）
 - *洗濯スタッフ導入（シルバー人材センター）
 - *災害時における一時避難所等施設利用に関する協定を西寒川自治会と締結
 - *感染症発生時における事業継続計画（BCP計画）策定
 - *法改正に伴う虐待防止に関する指針策定
- 3月
 - *科学的介護情報システム（LIFE）への登録完了
 - *介護報酬改定に伴う対応実施（運営規程・重要事項説明書の変更、加算申請並びに家族への説明・同意、職員に対する説明会開催）

ショートステイ しあわせの家寒川 事業報告書

※「ショートステイしあわせの家寒川」は、地域密着型特別養護老人ホームしあわせの家寒川の併設事業となる為、重複する部分については地域密着型特別養護老人ホームしあわせの家寒川事業報告書をご参照お願い致します。

1. 令和2年度の重点取組結果

(1) サービスの質の向上（接遇）

(2) サービスの質の向上（ユニットケア）

*上記（１）～（２）については地域密着型特別養護老人ホームしあわせの家寒川の事業報告書参照

(3) 安定した運営

開設前の準備としてショートステイの利用案内及び事前契約にまで対応することができませんでした。入居の場合にはスムーズに案内できるものの居宅サービスであるショートステイの場合には対象となる利用者を紹介してもらわなければならない、建物が完成していない状況で居宅介護支援事業所から紹介をえることができなかったことが原因です。次年度も継続して安定した運営に取り組むたいと考えます。

2. 目標稼働率結果

計画 全ての空床を含めた実総数に対して 84%

上記目標に対して、令和2年度の実績は以下の通りとなりました。

46.7%

非常に厳しい結果となりました。利用希望の問い合わせには漏れなく対応していましたが、契約者の絶対数が思うように上がらず居宅介護支援事業所からの紹介も想定以上に少なかったという状況です。これに対する施策として居宅介護支援事業所への空き状況の案内を毎週行うなどして直近の利用率は80%近くに向上しているところですが、まだまだ十分とは言えませんので、次年度に向けて更なる努力を重ねたいと考えています。尚、利用者の満足度という点においては、ご利用いただいた方から高い評価を得ていますので、今後の再利用には期待ができると考えています。

3. 施設行事实施結果

4. 職員配置結果

5. 各種委員会・職員会議結果

6. 各種研修会結果

7. その他、運営結果報告

*上記3.～7.については、地域密着型特別養護老人ホームしあわせの家寒川の事業報告書参照